

浮かし工法を用いた マルチケーブルのご紹介

線路ケーブルを無瞬断で新設端子板へ切替

2010/09/22

東京通信機工業 株式会社

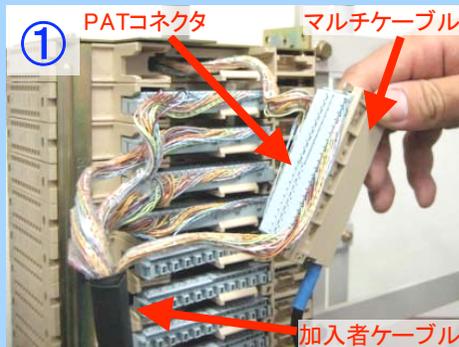
はじめに

- ▶ マルチケーブルは、MDFにおいてPATコネクタ付の線路ケーブルを、新設せずに無瞬断で新しい端子板に切り替えることができるツールです。
- ▶ 適用設備は既設所外端子板が、PATコネクタを有している必要があります。
- ▶ PATコネクタの分離または嵌合には、それぞれ専用の工具が別途必要となります。
- ▶ 浮かし工法MDFを用いる事により、既存のMDFに新設端子を搭載できます。

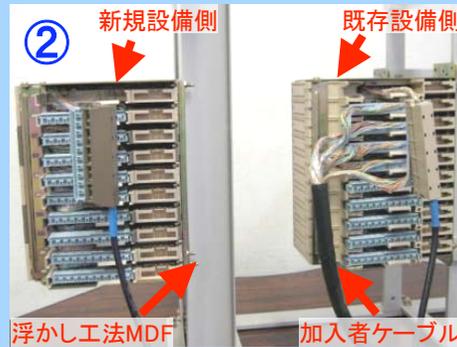


マルチケーブルの使用方法

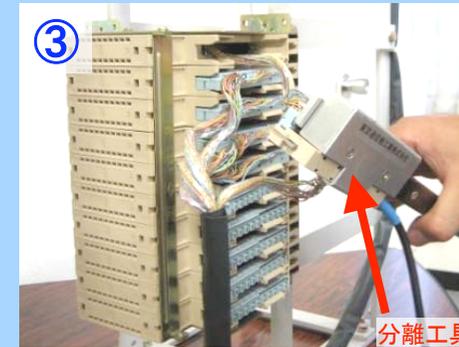
切り替え手順



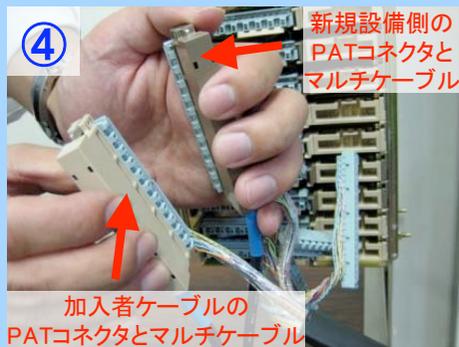
既存設備と接続されている加入者ケーブルのPATコネクタにマルチケーブルを接続します。



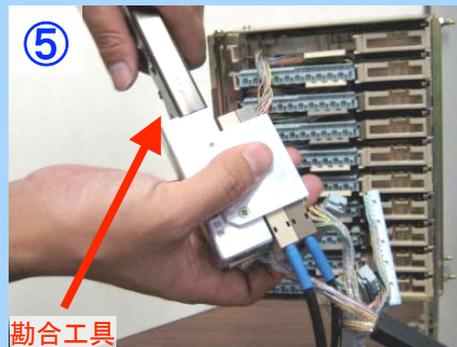
マルチケーブルの残っている片方を新規設備側のPATコネクタに接続します。



既存設備側に接続されている加入者ケーブルのPATコネクタを分離工具を使用して取り外します。



取り外した加入者ケーブルのPATコネクタを新規設備側のPATコネクタとマルチケーブルを取り付けたまま接続します。



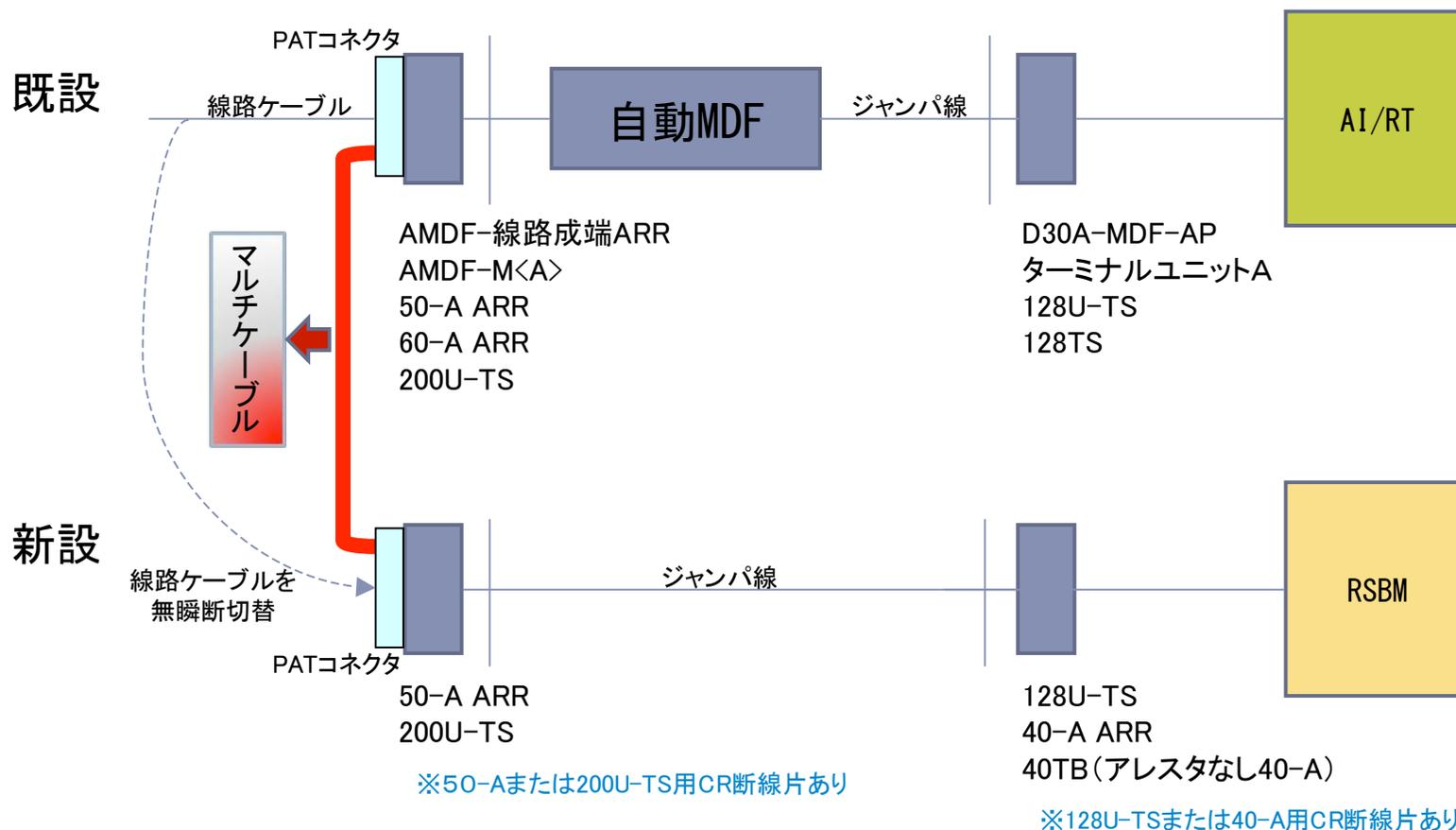
加入者ケーブルと新規設備側のPATコネクタを勘合工具により接続します。



最後にマルチケーブルを取り外します。

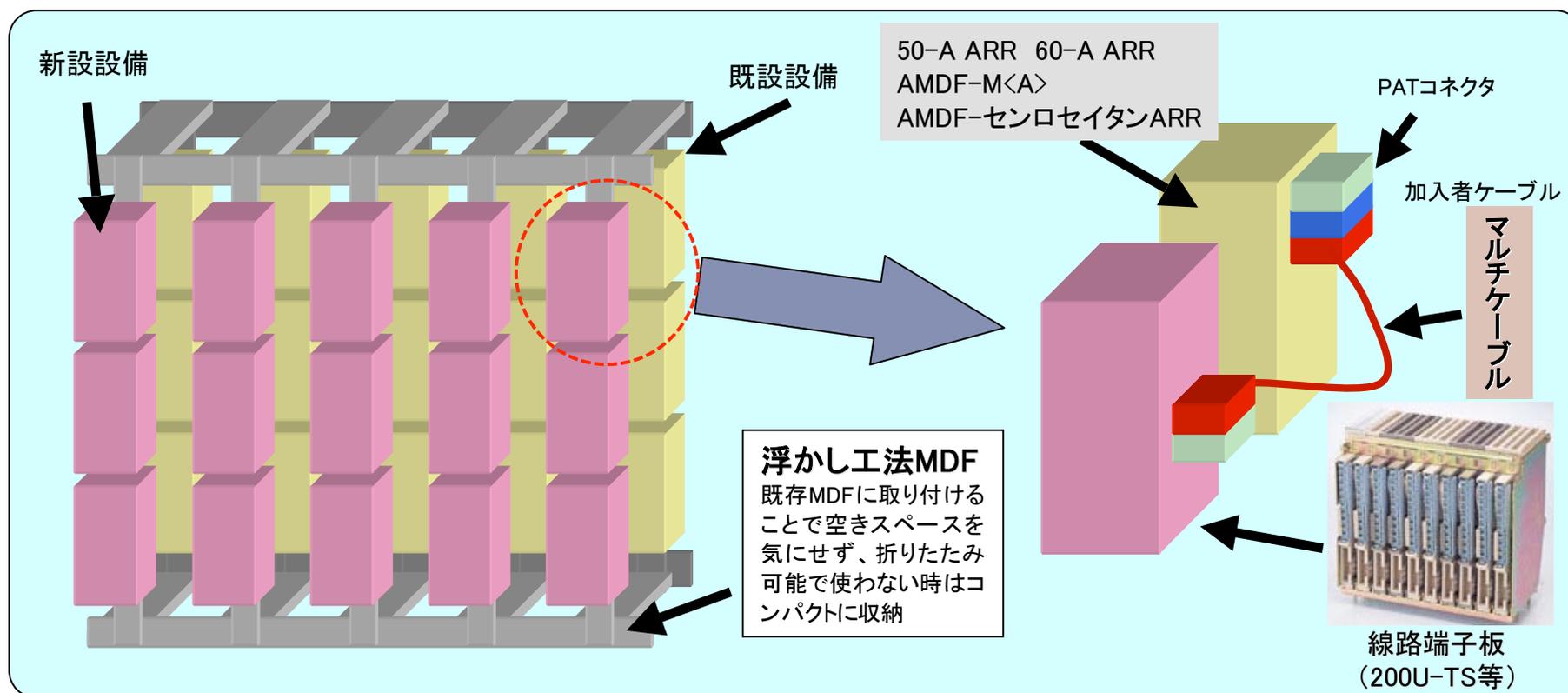
工法のご提案－適用箇所

- ▶ 「既設」から「新設」へMDFを切り替える際に、マルチケーブルを使用することで、無瞬断でPATコネクタ付線路ケーブルを新設端子板へ切り替えることができます。



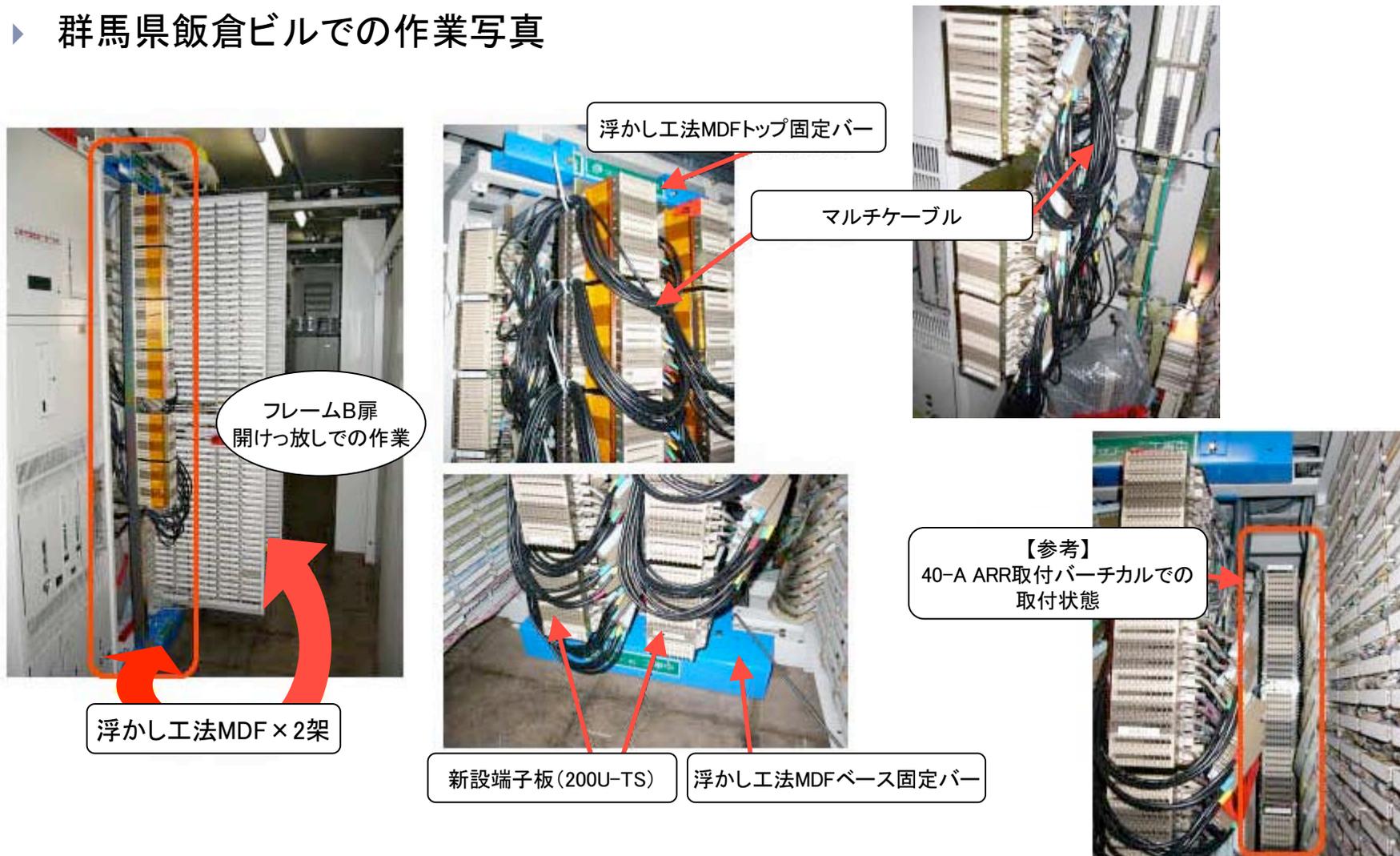
工法のご提案－浮かし工法

- ▶ 線路ケーブルを新設せず、既設ARRの前に新設端子板を仮設MDFを使って取り付けます。マルチケーブルを使えば、無瞬断で低コストで切替が実施できます。



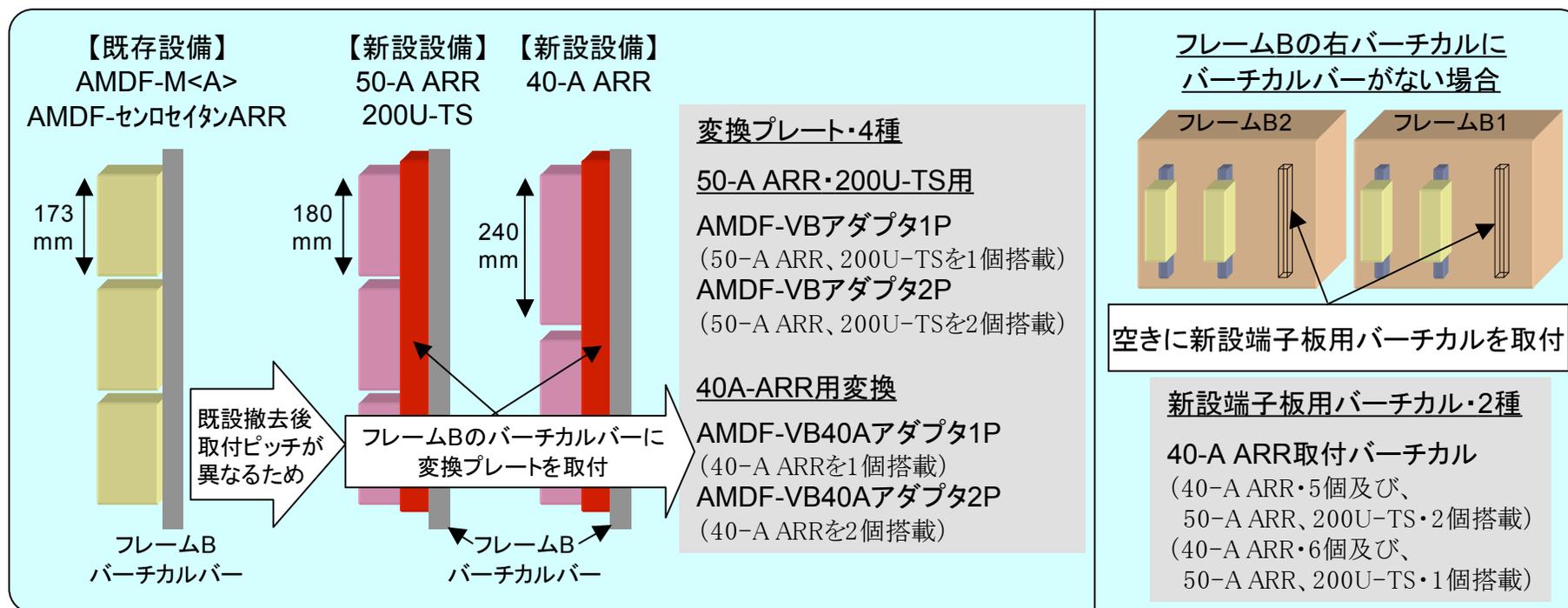
工法のご提案ーマルチケーブル・浮かし工法MDFの作業写真

▶ 群馬県飯倉ビルでの作業写真



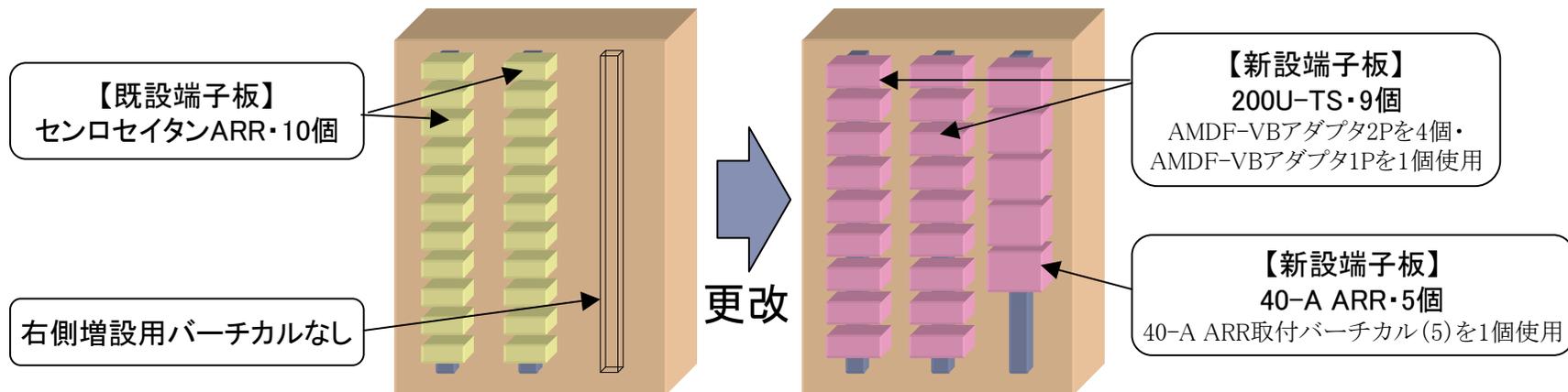
工法のご提案－端子板の搭載（極小自動MDF・フレームBの場合）

- ▶ マルチケーブルにて既設端子板から新設端子板への切替終了後、既設端子板を撤去し、浮かし工法MDFに仮設置してある新設端子板をフレームBに搭載します。
- ▶ この時、既設と新設端子板の取付ピッチが異なるため、フレームBのバーチカルバーに変換プレートを取り付け、新設端子板を搭載します。
- ▶ フレームBの右バーチカルがない場合、新設端子板用バーチカルを設置できます。

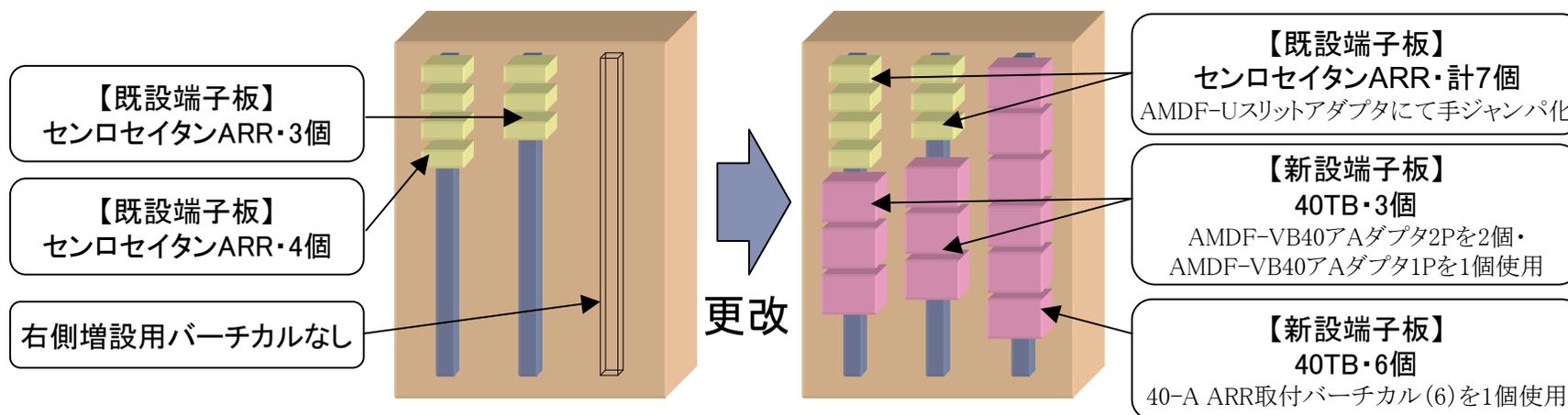


工法のご提案－端子板の搭載例（極小自動MDF・フレームBの場合）

▶ 搭載例1（群馬県飯倉ビル）



▶ 搭載例2（八尾空港）



工法のご提案ージャンパ線の整線（極小自動MDF・フレームBの場合）

- ▶ フレームBは、ジャンパを想定していない架ですので、ジャンパリングがありません。
- ▶ フレームBのバーチカルバーにジャンパリングを取り付けるアダプタにて、ジャンパリングを設置する必要があります。

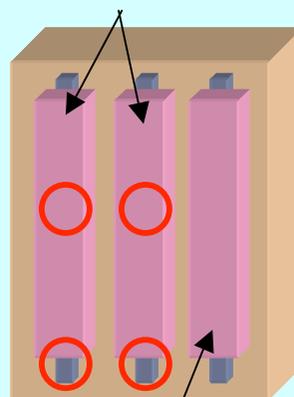
AMDF-ジャンパリングアダプタ
(19号配線輪をバーチカルバーに取付)



【使用例】 ○が使用箇所を表す

例1

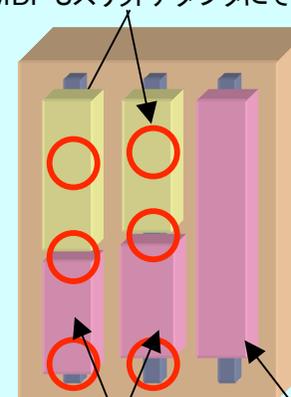
200U-TS・各9個搭載



40-A-ARR取付バーチカルにて
40-A ARR・5個搭載(※1)

例2

AMDFセンロセイタン・4個と3個を
AMDF-Uスリットアダプタにて手動ジャンパ化



40-A ARR・各3個搭載

40-A-ARR取付バーチカルにて
40-A ARR・6個搭載(※1)

※1 40-A ARR取付バーチカルには5カ所の19号配線輪取付用穴があります。

その他の工法のご提案－参考

- ▶ 「現状」の線路ケーブルおよび「現状」の線路側端子板を残し、装置側のみ「新設」MDFとする場合についてのご提案をさせていただきます。
この場合は、マルチケーブルは不要です。

